和歌山城下町 地名の由来

和歌山市は城下町として栄えてきました。私たちの住むところの地名をみてみると、なぜそのように呼ばれるようになったのかと、思うことがあります。調べてみると、和歌山の城下町は、概ね、徳川家が入った時に町並みがほぼ出来上がったようです。武家屋敷のあった宇治、広瀬、岡、吹上と、町屋が大部分の内町、北新町、新町、湊の八区域に分かれます。今回は、新町地区の畑屋敷の地名を見ていきます。

畑屋敷編

手前が鈴丸橋。向こうが伊勢橋。（紀伊名所図会）

❶ 鈴丸丁（すずまるちょう）

鎌倉期からの地名。新町地区の北の中心ともいうべき繁華な町でした。鈴丸橋は、家老安藤家中屋敷前にあったことから「中屋敷橋」とも呼ばれていました。東詰に番所があり、また東詰角に竹問屋があったことから「竹屋橋」とも呼ばれました。

❷ 畑屋敷新道丁（しんみちちょう）

「文久城下町絵図」では、「メッポウ谷」とあります。北部には「陶器場」と注記があります。享和元年、岡崎屋重治郎が藩の許可を得て当地に開窯。始めは「鈴丸焼」とも「滅法谷焼」とも称しましたが、徳川治宝の命により「瑞芝焼（ずいしやき）」と称するようになります。

❸ 畑屋敷松ヶ枝丁（まつがえちょう）

もとは、畑屋敷丁北西部の小名「松之下」。「寛政城下町図」では、「滅法谷」。「文久城下町図」では「一スジメ」とも記されています。

❹ 畑屋敷西ノ丁（にしのちょう）

❺ 畑屋敷中ノ丁（なかのちょう）

鈴丸橋から名草郡出水村に至る出水街道が当町の西と中に沿っていたためつけられました。

❻ 畑屋敷兵庫ノ丁（ひょうごのちょう）

佐藤兵庫という人物の屋敷があったことに由来します。「紀藩街官司秘鑑」に「畑屋敷之内ヲ兵庫殿屋敷とも言う」と記されています。「続風土記」にも「兵庫という人の屋敷跡なり。佐藤の町ともいう」とあります。佐藤兵庫については不詳。

❼ 畑屋敷千体仏丁（せんたいぶつちょう）

当時は、78間の町並みでした。由来は不詳。

❽ 畑屋敷端ノ丁（はしのちょう）

畑屋敷丁の端に位置していたことによります。陰陽師加茂右京が住んでいたことから俗称で「右京」（寛政城下町図）「右京ノ丁」（文政城下町図）と記されています。

❾ 畑屋敷東ノ丁（ひがしのちょう）

鈴丸橋から名草郡出水村に至る出水街道が当町の東に沿っていたためつけられました。

❿ 畑屋敷雁木丁（がんぎちょう）

町並みが途中で屈曲していたことに由来します。戦後の土地区画整理により昔の町の形態は見られなくなりました。

⓫ 畑屋敷袋町（ふくろまち）

およそ44間の袋状の町並みでした。明治6年には、町内の秋月熊次郎が和歌山で初めて乗合馬車（一頭立6人乗り）を営業しました。戦後の土地区画整理により昔の面影を失いました。

⓬ 畑屋敷葛屋丁（くずやちょう）

由来は不詳。旧称は小出町（こいでまち）ともいいました。（続風土記）

⓭ 畑屋敷榎丁（えのきちょう）

由来は不詳。

⓮ 畑屋敷円福院西ノ丁（えんぷくいんにしのちょう）

⓯ 畑屋敷円福院東ノ丁（えんぷくいんひがしのちょう）

享保13年まであった真言宗円福院に由来します。現在、円福院は、慈光円福院となり、北新金屋町にあります。

参考文献　角川日本地名大辞典　角川書店
和歌山県の地名　平凡社　紀伊名所図会